

【熊本県教育委員会賞】

わたしのふるさと荒尾市

荒尾市立万田小学校 3年 星田 結乃

わたしは、『勝清と「彦一とんち話」』を読んで、勝清さんは自分のふるさとをととてもあいしている人だと思いました。勝清さんは、小せつ家として昔から伝わる日本の生活のちえや歌を調べるため、日本中を回っていました。どこへ行っても、勝清さんの頭の中はふるさとのことでいっぱいだったそうです。

勝清さんは、そのふるさとへの強い思いを子どもたちに伝えていきたいと考えるようになり、出来上がったのがこの「彦一とんちばなし」だとわかりました。

また、むすめのナヲエさんの話からも、自分の書いたお話を聞いて、「力のあることよりもちえのあることの方がすばらしい」という考えに気づいてほしいという勝清さんの思いもよく伝わってきました。

わたしのふるさと荒尾市にも、みんなに伝えたいすばらしいところがたくさんあります。

一つ目は、美しい自ぜんです。わたしは、有明海の近くに住んでいます。夕方、海岸におさん歩に行くと、夕日が海にうつり、キラキラ光ってとてもきれいです。有名な詩人の海たつきみこさんの詩にもなった場所です。

二つ目は、昔からうけつがれているものがたくさんあるところです。四ツ山神社というとても歴史のある神社があります。神社では、毎年二月と九月に「こくんぞさん」というおまつりがあり、巫女舞がほうのうされます。わたしは地元の小学生の巫女として、豊栄の舞を練習しています。豊栄の舞は、自ぜんのめぐみや、神様への感しゃを表す舞です。ふるさとのでんとうある神社で、巫女舞をひろうできることは、とてもほこらしいことだと思っています。

三つ目は、みんなが笑顔になれる場所が今も大切にされのこっているところです。

わたしのおばあちゃんは、荒尾駅のすぐそばで、ひいおばあちゃんの代から続くきつ茶店をしています。お客さんたちは、いつも楽しそうにふるさとの話をしています。わたしは、それを小さいころから聞いているので、どんどん荒尾がすきになりました。

ほかにも、わたしの住む熊本県には、緑いっぱいのあそ山や、夏に行くとすずしさを感じられるゆう水トンネルなど、自まんできる自ぜんがたくさんあります。わたしは、そんな荒尾市や、自ぜんいっぱいの熊本県が大すきです。

それでも、このお話に出てきた人吉・くま地方など、まだまだ知らない場所が熊本県にはたくさんあります。そんな、まだ行ったことのない場所に行って、ふるさと熊本のいいところをもっとさがしたいです。

せっかく自ぜん豊かな熊本県に生まれたので、勝清さんがナヲエさんに伝えたように、わたしも少しずつ昔から伝わるちえを学び、元気にかしこく育ちふるさとのよさを伝えていけるようになりたいです。